

道、頂上を結び1周2.7kmのコースを、小学生の部が4区間5.4km、中学生の部は4区間10.8km走る。高校と一般の部はグラウンドから石灯籠通り、寺町通りを巡った後、越前大野城を目指す4区間16.4km。参加費は小学生の部は1千1

来月20日、大野青年会議所 4人

名車の展示もある。大会の詳細はホームページ (<http://www.ohno-jc.or.jp>) で確認できる。問い合わせは大野青年会議所事務局(平日の午前9時~午後1時) ☎0779(6)12333。

獅子が大きく伸び上がり、境市の稲郷八幡神社



大野・稲郷で伝統

時中も途絶えず毎年奉納されてきた。現在は青年会が伝統を受け継いでいる。花見にやって来た農家の夫婦が、天狗と意気投合して酒を酌み交わし、そこに獅子も加わり舞い踊るストーリー。ユーモラスな掛け合いを演じ、後半はおはやしに合わせ式三

嶺北三国ほど、坂井協で車両転事故発生を救助訓練を空で連携と認めた。写真同署員と防署、県防の計約30人

骨組みに太陽光パネルを設置する参加者。坂井市三国町陣ヶ岡



太陽光発電設備 手作り

坂井・三国の山崎さん

坂井市三国町陣ヶ岡でおから牧場を経営する山崎一之さん(64)が、牧場敷地内に、組み立てを自らが行う「DIY(ドゥ・イット・ユアセルフ)」型の太陽光

発電設備を手作りに設置した。「設置コストが安く、土地のある農家への取り組み拡大を呼び掛けている」と意気込んでいる。(高村友基)

牧場敷地費用安く

「農家普及 呼び掛けたい」

DIY型太陽光発電では、骨組みに鉄パイプを使うなど太陽光パネル以外は手軽に入手できる資材を利用、組み立ては自分たちで行う。今回の設備は約80平方メートルの傾斜地に縦0.8メートル、横1.6メートルの太陽光パネル60枚を設置した。出力は11.4キロワット。山梨県で太陽光発電の研究、設置を行っている山梨自然エネルギー発電社長の大友哲さん(54)が監修した。

大友さんによると、DIY型太陽光発電は業者に依頼して設置する一般的な太陽光発電に比べ、設置コストは3分の1程度になるといふ。また、

自由に設計できるため「田んぼのあぜ道や耕作放棄地などさまざまな場所に設置でき、売電することによって農家の副収入にもなる」と話す。

設置作業は16、17日に行われ、山崎さんのほかボランティアから計約30人が参加。鉄パイプで骨組みを築いた後、太陽光パネルを載せていった。発電電力は、自宅で消費するほか余剰分を売電することを考えている。

発電設備は、自由に見学できるようにする予定。山崎さんは「原発は事故が起これば農家は大きな被害を受ける。農家にクリーンで安全な太陽光発電への理解や関心を高めてもらい、普及させていきたい」と話していた。



江留

第7回坂井壁新聞コンク
新聞社後援
12日、同市
ンターで行わ
43点から入
50点を選ん